
ラウンドテーブル

テーマ

徳島県下の大学教育連携に期待するもの 及び今後の連携の方向性

●鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授 幾田伸司

鳴門教育大学では、平成13年度よりFD推進事業を継続的に実施し、学内の授業改善を図ってきました。これらの取り組みは一定の成果を上げてはいますが、一方で教員の参加率の伸び悩みなど、いくつかの課題も浮き彫りになっています。

そこで、本ラウンドテーブルでは、本学で実施してきた事業の一端として、公開授業と授業研究会、教員・外部識者（教育委員会・附属校園教員）・学生による三位一体型ワークショップの概要と、現在作成中のカリキュラムマップを活用したFDの可能性について、報告いたします。

そのうえで、本学単独で実施してきたこれらの事業の共有、及び各大学・学校との提携の可能性についてご意見をうかがうとともに、FDの実施に関する課題と、各大学・学校の取り組みに基づく課題解消の方策の共有を図っていきたいと考えています。

●阿南工業高等専門学校 校長補佐 坪井泰士

本カンファレンスはもとより、SPODによって構築されたFDネットワークにより、多数の先駆的な教育実践の取り組みは進んできており、教育の質的向上に接続している。

その質的向上を保証し、また、加速するためには、「FD活動への実践的な相互参加」が求められているのではないかと考えます。これは、公開授業・研究授業や授業研究をはじめワークショップなど、各校が行っている具体的なFD活動に学外から参加し、ともに学ぼうとすることを含みます。

SPODでのワークショップ等とくらべ、その学校での教育実践の中でより直接的に意見交換・情報交換が進むと期待される。フラットな集合体としてあるSPODの中に、学内者と学外者を対置されることで、新たなFDの地平が見えるのではないだろうか。

●徳島工業短期大学 学長 山本哲彦

本学の目的は自動車整備士を養成することであり、他の自動車短期大学7校と全国自動車短期大学協会を構成して充実を図っている。入学生は、工業系の他、普通高校、農業高校卒業など多彩である。概ね、実習は好きだが、講義形式（座学）の授業は苦手とする学生の割合が多い。また、国家資格取得を目指した学生が入学するため、全体的に学生の目的意識は高い。

本学の前教育課程では、つまずき経験・未修得学力を持つ学生が散見される。3年前から、入学直後クォータ制で3名の学生に対して1名の教員がつき、数学と物理の基礎を教える選択教科を開設した。しかし、教員の専門分野が機械工学・電気工学中心のため、文科系の分野（教育心理・道德教育など）に暗い。そのような理由により、SPODへの期待は大きい。

本学が抱える課題は県下の他大学教育現場にもみられるであろうが、（1）アパシー（他に関して無関心、無気力である様）の青年に対する対策、（2）入学時から卒業までに、学生がどのように・どの程度成長したかを知る尺度を作りたい。

●徳島大学理事（教育担当）副学長 和田眞

教育の荒廃が問題になり、教育改革が叫ばれて久しい。今日、この荒廃は大学まで押し寄せていると言っても過言ではありません。大学全入時代、学力低下、学習意欲低下、人間力低下、教養教育の崩壊、就職予備校化など、現在の大学が抱える問題は数多く、解決しなければならない課題が山積していますが、先ずもって私たち大学教職員の意識改革が不可欠と思われまます。その意味ではSPODやT-SPODの果たす役割が重要です。

国立教育政策研究所が開発したFDマップによれば、FDはマイクロレベル（授業・教授法の開発）、ミドルレベル（カリキュラム・プログラム）、マクロレベル（組織の教育環境・教育制度）に分類できます。徳島大学では、マイクロレベルやミドルレベルのFD活動が大学開放実践センターの先生方を中心にして活発に行われていますので、まず簡単に紹介したいと思います。

さらに本カンファレンスでは、マクロレベルのFD、また教育荒廃の根はどこにあるのか、教育の理念についても議論できればと願っています。本カンファレンスが、徳島県下の大学が連携することにより、人づくり教育と地域の教育の再生に向けて先陣を切る機会になればと思います。「教育は国家百年の大計」です。